

9月1日は「防災の日」 ～自然災害への備えと感染症対策～



①令和2年7月5日、熊本県入吉市の様子（気象庁提供）
②大雨により発生した土砂崩れ（令和2年7月13日撮影 気象庁提供）

—— 詳 危機管理室 回 (32)6280

6～10月ごろは大雨や台風が多く、川などが増水しやすい「出水期」といわれています。

7月3日から、九州地方や岐阜県、長野県などを襲った「令和2年7月豪雨」。この大雨により、河川の氾濫、土砂災害、低地の浸水などが発生し、死者や負傷者、家屋破損など甚大な被害をもたらしました。

さらに、今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、避難する際は感染を拡大させないよう十分な対策をとることが求められています。本市も海、山、川があり自然豊かなまちだからこそ、日頃から自然災害への備えをしておく必要があります。

大雨に注意！水の怖さを知ろう

気象庁から記録的短時間大雨情報が発表されるほどの雨が降ると、災害発生の危険が高まります。大雨が予想される時は水辺に近づかないようにし、気象情報に十分注意してください。

歩ける深さは膝下まで！

水深が腰まであったり、浅くても水の流が速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。

水中を歩ける深さはだいたい30cmくらいなんだから

車が浸水したらすぐ外へ！

水深が30cmに達すると車のエンジンが停止する可能性があり、水深と流速が増すと車ごと流される危険もあります。

避難に遅れたら…

自宅の2階が近くの高層な建物の2階以上に逃げましょう。

避難するときは、ひもで締められる運動靴などを履きましょう！

日頃から防災意識を高めよう

役割分担を決める！

火を消す人、非常持ち出し品を管理する人など、災害時の役割分担を決めましょう。また、電気のブレーカーやガスの元栓の位置、消火器の位置や使い方なども忘れずに確認しておきましょう。

連絡方法や集合場所を決める！

災害時に家族が一緒とは限りません。家族がバラバラになったときの連絡方法や、集合場所などを決めておきましょう。

避難所を確認しておく！

自宅から避難所、避難場所などまで、実際に歩いてみましょう。避難ルートに危険がないか、どれくらいの距離と時間を要するかなどを確認しておきましょう。